

2024年3月10日

主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒110番（旧 192 番）

『夜は更けわたりぬ』

聖書⇒詩編 73 編 26 節（KH 姉）

『わたしの肉もわたしの心も朽ちるであろうが／
神はとこしえにわたしの心の岩／
わたしに与えられた分。』

礼拝讃美歌⇒53 番（旧 102 番）

『主よ君の他に』

聖書⇒ヨハネによる福音書 5 章 17~18、24~25 節（SK 兄）

『イエスはお答えになった。「わたしの父は今もなお働いておられる。だから、わたしも働くのだ。」このために、ユダヤ人たちは、ますますイエスを殺そうとねらうようになった。イエスが安息日を破るだけでなく、神を御自分の父と呼んで、御自身を神と等しい者とされたからである。』

聖書⇒マタイによる福音書 17 章 1~2、5~6 節

『六日の後、イエスは、ペトロ、それにヤコブとその兄弟ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。イエスの姿が彼らの目の前で変わり、顔は太陽のように輝き、服は光のように白くなった。』

ペトロがこう話しているうちに、光り輝く雲が彼らを覆った。すると、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者。これに聞け」という声が雲の中から聞こえた。弟子たちはこれを聞いてひれ伏し、非常に恐れた。』

（祈）

礼拝讃美歌⇒365 番（旧 242 番）（TM 兄）

『ただ主を讃えて』

《パン裂き》

聖書⇒ルカによる福音書 23 章 39~46 節 (NH 兄)

『十字架にかけられていた犯罪人の一人が、イエスをののしった。「お前はメシアではないか。自分自身と我々を救ってみろ。」すると、もう一人の方がたしなめた。「お前は神をも恐れないのか、同じ刑罰を受けているのに。我々は、自分のやったことの報いを受けているのだから、当然だ。しかし、この方は何も悪いことをしていない。」そして、「イエスよ、あなたの御国においでになるときには、わたしを思い出してください」と言った。するとイエスは、「はっきり言っておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」と言われた。』

聖書⇒コリントの信徒への手紙一 11 章 2 c 26 節

『わたしがあなたがたに伝えたことは、わたし自身、主から受けたものです。すなわち、主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、「これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。また、食事の後で、杯も同じようにして、「この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。』

礼拝讃美歌⇒149 番 (旧 220 番)

『主イエスを覚えんため』

(式)

《建徳》

聖書⇒ヨハネによる福音書 15 章 1~5 節 (NH 兄)

『わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である。わたしにつながっているが、実を結ばない枝はみな、父が取り除かれる。しかし、実を結ぶものはみな、いよいよ豊かに実を結ぶように手入れをなさる。わたしの話した言葉によって、あなたがたは既に清くなっている。わたしにつながっていないさい。わたしもあなたがたにつながっている。ぶどうの枝が、木につながっていなければ、自分では実を結ぶことができないように、あなたがたも、わたしにつながっていなければ、実を結ぶことができない。わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。』

聖書⇒詩編 80 章 9 節

『あなたはぶどうの木をエジプトから移し／
多くの民を追い出して、これを植えられました。』

聖書⇒ルカによる福音書 3 章 8 節

『悔い改めにふさわしい実を結べ。『我々の父はアブラハムだ』などという考えを起こすな。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 13 章 10 節

『イエスは言われた。「既に体を洗った者は、全身清いだから、足だけ洗えばよい。あなたがたは清いのだが、皆が清いわけではない。」』

聖書⇒マルコによる福音書 1 章 8 節

『わたしは水であなたたちに洗礼を授けたが、その方は聖霊で洗礼をお授けになる。』

聖書⇒詩編 47 編 2 節 (ES 姉)

『すべての民よ、手を打ち鳴らせ。神に向かって喜び歌い、叫びをあげよ。』

聖書⇒エフェソの信徒への手紙 2 章 14~16 節

『実に、キリストはわたしたちの平和であります。二つのものを一つにし、御自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し、規則と戒律づくめの律法を廃棄されました。こうしてキリストは、双方を御自分において一人の新しい人に造り上げて平和を実現し、十字架を通して、両者を一つの体として神と和解させ、十字架によって敵意を滅ぼされました。』

礼拝讃美歌⇒496 番

『たたえよあがないぬしイエス』

《建徳要旨》